

金曜 ライフ・楽しむ

シニア世代を応援するページです

対談再掲載「あの人」の知恵と元気

わたし色

生活情報誌「悠悠と。」

編集長・真鍋康利さん



ることになりました。

令和が変わるとき、「悠悠と。」が平成生まれということで、それなりにしみじみしたのを感じました。そこでこれまで発行したものを読み直してみたら、なかなか面白いのです。この期に及んで間違いを発見し、冷や汗が出た瞬間もありましたが……。

○ ○ ○ ○ ○
巻頭の「百期百会」は、トンちゃんの愛称で知られるフリーアナウンサー橋本登代子さん進行による対談コーナーで、創刊以来いろいろな方にご登場いただきました。

ゲストの選定基準は、「元気になる役に立つ」という本誌の趣旨に沿ってお話を伺えるかどうかです。しかし、実際は編集長である私の、「あの人に聞きたい」という思いからの独断で、あらゆる手づるを駆使して依頼します。幸い急な体調不良で困難となったお一人から断られただけで、高打率だと思えます。

市井の方からどなたもご存じの著名な方まで、116号まで来ましたが、中には複数回掲載の方もいらっしゃるの、100人強の方にお話を伺ったことになりました。内容は興味深いものばかりで、そのまま埋もれてしまうのは実に惜しいと思い、改元を記念してもう一度復活、再掲載す

テレビでは蔵出しスペシャル、映画ではリバイバル上映でしょうか。誌面の再掲載はライブラリーかな、などと考えていたとき、アーカイブスという言葉に出会いました。公文書など重要記録を保存・活用し、未来に伝達することを言うのですが、あまりなじみはなく、手元の広辞苑第五版にも載っていないので新しい言葉のようです。すぐこれに決めました。何かちょっとかっこいいな、と思ってしまったのです。

○ ○ ○ ○ ○
100人の中には、既にお亡くなりの方がいらっしゃっ

て、彼らの話はもう聞くことができません。そこですら故人4人の記事を選びました。

1人目はラジオオパーソナリティーとして活躍した中西章一さん。軽妙な語り口で人気を博しました。2人目は1998年のSTV杯ラリーシヒルで優勝し、長野五輪でテストジャンパーも務めた難聴のスキージャンパー高橋竜二選手の父高橋知秋さん。3人目は「リラ冷え」という季語の生みの親として有名な俳人榛谷美枝子さん。最後は北海道を代表する画家八木伸子さん。詩情あふれる北国の四季はとも魅力的です。

このアーカイブス企画は、「面白い話と懐かしい姿にまた出会えてうれしかった」と大好評。「トンちゃんも若かったんだねえ」という声も届きました。そして、この企画、もう少し続けようと考えています。乞うご期待。